

## 令和7年度 第3回 野洲市地域公共交通会議 議事要旨

日 時	令和8年2月2日(月) 14:00~15:10
場 所	野洲市役所本館3階 第1委員会室

○出席委員：井上会長、田中康嗣委員、岩井委員、小林委員、近藤氏（北村委員代理）、田中暢之委員、池田委員、塚田委員、中村委員、野村委員、松尾委員、糸委員、岡本氏（山下委員代理）、喜多畑委員、井狩委員、井出委員、北田委員、西村委員、布施委員

○欠席委員：福島副会長、清水稔委員、清水宏孝委員、田部委員、

○事務局：櫻本市長

都市建設部 今在家次長

都市政策課 吉川課長、山田課長補佐、森岡主事

地域医療政策課 瓜谷係長

高齢福祉課 今在家課長、丹沢主査、山浦主査

○傍 聴：2人

○会議結果

議題

(1) 野洲市コミュニティバス自家用有償旅客運送登録の更新について

→承認

(2) 野洲市コミュニティバスの再編案について

→承認

(3) 公共交通市民懇談会開催について

→承認

(4) つれだし隊の現状報告について

→報告

その他

・地域公共交通活性化シンポジウムについて

### 1. 開会

### 2. 挨拶

市長：本日は、ご多忙の中ご出席いただき感謝する。平素より、本市の公共交通の維持・発展にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨今は、野洲市内の主な移動手段として自家用車を利用いただいているが、高齢化に伴い移動手段を持たない人が増えてきたと実感している。地域でも、そうしたご意見、ご心配を耳にする。しかし、地域公共交通の運行を維持するために必要な乗務員は、少子高齢化により担い手が不足しているうえ、担い手確保に伴う人件費の増大や物価高騰など財政的負担が増加している。そうしたなか、令和9年3月に開院予定の市立野洲地域医療センターに併せ、本市のコミュニティバス再編を、民間路線バスと一体

的に進めているところである。

本日の会議では、コミュニティバスの再編案などについてご審議いただきたい。委員の皆様においては、忌憚のないご意見、ご提言をお願い申し上げます。限られた時間ではあるが、有意義な会議となるようお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。

会 長：会議開始にあたり、大津市で今月末をもって京阪バスが全面撤退する。もともと江若交通が運転を受託しており、看板が変わるだけと思われるかもしれないが、引き継ぐ事業者がいてこそその結果である。大阪府交野市では、バス事業者の撤退で引き受け先がなかなか無く、市が苦勞してバス運行を確保している。

バスは、いざ無くなると途端に対応が大変になる。では、どうすればいいかという、継続的に運行できるように、皆様が利用を進めることを望む。赤字だから廃止になるのではなく、旅客が少ないからバスで無くてよいということで撤退になる。野洲市では、市長の挨拶のとおり、病院開院で交通網が変わりとてもよくなる。そこから、よくなった状態をどうしたら継続できるか、皆様と知恵を出せればと思う。

### **3. 議事**

#### **(1) 野洲市コミュニティバス自家用有償旅客運送登録の更新について**

事務局：資料1により説明

会 長：質問、意見はあるか。

大きな変更点は運行委託業者のみであり、その他で大きな変更はない。

委 員：令和8年4月1日よりおのりやすを運行させていただく。事業者が変わっても、地域公共交通の役割を果たしていけるよう、頑張る。よろしくご意見申し上げます。

会 長：本議事は、承認いただけるか。

全 員：異議なしの声。

会 長：本議事は承認とする。書類調製のうえ、野洲市から滋賀運輸支局へ提出いただく。

#### **(2) 野洲市コミュニティバスの再編案について**

事務局：資料2により説明

会 長：質問、意見はあるか。

委 員：事務局の説明のとおり、今回新たな地域拠点となる市立野洲地域医療センターの開院に併せた再編となる。1点目の議事のとおり、おのりやすは民間路線バスを補完する位置づけであり、再編にあたっては、乗務員確保が厳しいなか運行いただいている近江鉄道(株)にも相談している。そうしたなかで、市内路線の再編を念頭に、近江鉄道(株)より永原循環線増便のご提案をいただいたところである。市としては、重要な機会としてコミュニティバス再編を組み立てたという状況である。

会 長：これだけバスが増便されるのは、なかなかない話である。便数が増えるため、「本数が少ないから乗らない」という理由は減るだろう。運行を開始した後に、利用があるかが重要となる。沿線住民にも朗報であるため、ぜひ通勤通学、外出の際の移動に向けても永原循環線の利用を周知いただきたい。回覧等で周知できるとよい。また、乗車体験等の機会も設けられるとよい。

これを背骨とし、コミュニティバス路線が変わっていくなかで、路線が維持・増強される。現行以上のご利用がいただけるとよい。おのりやすは、野洲駅において北口、南口と発着がばらつくが、それにより便数確保が可能となる。利用者が折り合いをつけることで、地域公共交通が便利になったと実感いただけるようになる。計画実施前の周知をしっかりと行っていただきたい。

- 委員：今回の病院移転で、もともと駅近くにあった病院が駅から離れた位置に移る。勤務者、通院者の足が無くなるということで、協議の結果こうした提案になっている。
- 過去を振り返ると、コロナ禍前より乗務員不足、2024年問題で減便によりご迷惑をおかけしてきた。そうしたなか、お客様がいるところにおいては、増便をしている。例えば、ここ最近であれば、守山市での村田製作所への通勤増加、近江八幡市のラ・コリーナへの観光客増加等に併せ、必要などころに増便している。守山市では、通学定期券補助を数年前より実施しており、これと増便が相まって、利用者数が増加している。昨年度も1便を増便とした。必要などころには今後も増便する一方、バスでなくとも他の手段で移動できる場所はタクシー等と協力しつつ、定期券補助等の取組みもしっかりと行い、一緒に作り上げていきたい。
- 会長：ご紹介いただいた定期券補助は、各世帯へ一定額を補助することを子育て支援として実施する事例が増加している。滋賀県内は大学への通学が多いが、守山市では、定期券補助により家庭負担が少ないため自宅から通学し、継続して居住し、将来的な就職も滋賀県がよいとなっている。一度下宿してしまうと、下宿先に居ついてしまう等、戻らない事例も多い。子どもに留まってもらうには、そうした一つ一つの取組みが必要とされている。
- また、神戸市では、市内高校生の定期代を無料にしたところ、積み残しが出るほど定期券が購入されバス利用が増えた。こうすることで送迎が減少し、道路が走りやすくなり、タクシー事業者等を含めwin-winになるだろう。子育て世代に対するアプローチにより、地域公共交通でよい結果が出るという事例の共有である。
- 委員：再編案では、北口発着の路線が多い。北口は送迎車が多く、ロータリーに入れないう時間帯がある。増便されバスの出入りが増加しても問題なく循環できるのか、その対応を伺いたい。
- 事務局：ロータリーは、北口、南口ともに課題と認識している。個別送迎が多くなればより渋滞が悪化することから、永原循環線の利用促進等で1台でも自家用車を削減して駅前の混雑を緩和したいと考えている。
- また、自家用車による送迎ではなく、自転車やバスに転換するか、市として今後検討する必要性を感じている。次回の路線再編に併せ、現場等を見て確認していきたい。
- 委員：北口ロータリーの駐車が数台あり、地域安全センター前への駐車も見られる。飲み屋前等、駅前周辺での違法駐車も多い。駅前では困ると地域から苦情がきたため、駐車禁止のコーンを各所に設置しているが、駐車場がないため路上駐車となっている。駅前のパトロールもしているが、北口周辺は雨天時には特に多い。雨天時は、バス利用者も増加する。そのあたりを行政はどのようにお考えか。
- 委員：駅北口を中心に、地域の協力をいただきながら運行しているバス路線もある一方、送迎車両が多くなるということで、これをバスに変えていく取組みが重要であるという指摘もいただいている。近江鉄道(株)において、守山市で定期券補助により相乗効果が生まれ、バス利用が増加しているという事例もある。まずは、そうした取組みの検討を進めている。
- 委員：駅前において、1台の駐車時間が長すぎるため、近隣からの苦情は長時間駐車についてである。北口から階段を降りてビルのところまで駐車されており、苦情がくる。バスは、運行がない、便数が少ないということもある。割引制度等考えていただけたら、通勤通学利用もさらに多くなると考える。また、高齢者の免許返納事業ももっと広く行っていただけると、利用増加に繋がると思う。そのあたりの取組みについては、どのようにお考えか。

事務局：学生通学定期補助と併せ、近江鉄道(株)の小判型定期もある。こちらの補助も実施できるよう、検討して参りたい。準備が整った際には、この場で皆様に審議を賜りたく考えている。

会長：送迎問題は、滋賀県内各所で見られる。送迎車へ沿線の時刻表を配布する取組みもある。再編に併せ、そうした取組みも含めて考えられてもよい。  
他に質問、意見はあるか。本議題は、承認いただけるか。

全員：異議なしの声。

会長：本議事は承認とする。

### **(3) 公共交通市民懇談会開催について**

事務局：資料3・4により説明

会長：質問、意見はあるか。

今週末ということで、ぜひ皆様にご参画いただきたい。また、登壇者にはよろしく願い申し上げる。

本議事は、承認いただけるか。

全員：異議なしの声。

会長：本議事は承認とする。

### **(4) つれだし隊の現状報告について**

担当：資料5により説明

会長：質問、意見はあるか。

委員：この有償ボランティアは、何名程度で活動しているのか。

担当：ボランティアには、約20名が登録している。全てが常時活動しているというわけではなく、数名が買物支援に参加いただいている形である。

委員：実績報告を見ると、利用者数は10月が最も多いが、どのような数え方をしているのか。

担当：資料にお示ししている実績は、延利用人数である。利用者は登録制であり、16～20名程度の登録がある。

委員：利用者、ボランティアの男女割合は。

担当：ボランティアは、男女ともいるが、女性が多い。利用者も同様である。

委員：1人暮らしの高齢者が多いのか。

担当：1人暮らしや高齢者世帯の利用が多い。

委員：この取組みは、車で自宅まで行くのか。

担当：送迎込みの買物付添いサービスである。

委員：時間は何時間くらいか。

担当：買物時間は、1時間程度である。送迎時間はこれに含まない。利用者は様々な地域に住んでおり、移動時間にはばらつきがある。

委員：ボランティアが送迎した時間が1時間ということか。

担当：買物付添いサービスは、1台の車両で数人を迎えに行き、数名で買物の付添い支援をした後、1台の車で自宅まで送迎している。

委員：皆保険に入っているのか。また、どこの車を用いているのか。

担当：団体保有車と、一部はリース車である。必要な保険に加入し、事故の際にも対応できるような体制作りをしている。

委員：初めて聞いた。既に2年実施しているのか。

担 当：おっしゃるとおりである。令和6年10月より実施している。実証実験の際より、本会議の場で報告したうえで実施している。

委 員：今年度より委員になったため、本事業の基本的事項やこれまでの経緯等を把握していない。そのため、理解できていない点が多い。

事務局：経緯としては、導入時点において本会議で地域公共交通との棲み分け等を協議しているほか、1年に1回は進捗報告を行うこととしている。

委 員：次回は、詳細な資料も添付されたい。

事務局：今後も本事業は継続して報告する。その際は、基本的な事項も併せて周知するよう、資料に反映する。今回は、その配慮が欠けており申し訳ない。

会 長：他に質問、意見はあるか。

着々と進めていただいている。地域公共交通でカバーできないところをサポートいただいております、今後も進めていただきたく思う。当初はかなり危惧していたが、野洲市では上手くやっている。他地域では上手くいっていないところもある。地域公共交通と競合しているうえ、本格運行にあたり運賃を安くしてほしいという地域要望があり、バスの撤退に繋がることが危惧される。このような状況になっていないところが、野洲市のよいところである。フレイル予防として実施している事業として、定期的な利用者は心健やかに生活できているといった効果について、定性的でも声を集めていただけると、事業の意味が出てくる。利用者数増加より、必要な人に届いていることが重要である。定性的な内容でもよいので、データを集めていただきたい。

本議事は報告事項である。皆様で共有いただければと思う。

#### **4. その他**

##### **○地域公共交通活性化シンポジウムについて**

委員：チラシにより説明

#### **5. 閉会**

事務局：慎重な審議に感謝する。本日の会議を終了する。

以上